

項	NO	意見・質問等	回答等	審議会での意見	左記意見に対する回答・意見等	担当課
20	6	<p>・子どもたちへの関わり方は、性別でわけた従来の性別規範(男の子は～あるべき、女の子は～あるべき)から脱して、個々の個性を大切にしたいものになっていきますか？この点について、育児相談等で親の悩みとして聞くことがあります。研修などで扱われているか、教えてください。</p>	<p>日々の保育では、性別規範にとらわれず、個性を大切にしたい児童と触れ合うことを意識している。 ※平成28年度 関係研修会への参加状況 ○県保育士会「男性保育士にもとめられるもの」 ○公立保育所保育士研修会「エチオピアの子どもたちと過ごした日々」 ○小児保健研修会「気になる子を含む、すべての子どもが大切にされる保育について」 ○市職員啓発研修会「LGBTってなんだろう？～互いの違いを受け入れあえる社会を目指して～」 上記に所長等保育士が参加し、研修内容について、職場での周知を図った。</p>	<p>・県保育士会「男性保育士にもとめられるもの」というタイトルで研修が実施されているが、上記に記載している「性別規範にとらわれず」という姿勢と、この「男性保育士にもとめられるもの」というのがどう整合するのか。 男性保育士にはこういうものが求められますよというような、従来の性別規範に基づいたものにならないように実施しているのか。</p> <p>・「男性保育士にもとめられるもの」というタイトルだけみると、女性ではなく男性に責任を求められているような感じがする。男女それぞれが得意不得意の分野が存在すると思うが、大切なのは、どうお互いの長所を認識しあって協力していくかということ。</p> <p>・男性保育士の数が少ないように、男性の方が少数派である職場の中での居心地の悪さをどう克服していくのかは、男女共通の課題として、少数が職場でどう働いていくかというサポートが必要なことである。</p>		<p>子育て施設課 内田</p>
56	22	<p>・デートDVに関する取り組みが少なく、問題のある現状に合っていない。子どもたちがDVや性暴力問題の加害者や被害者になるリスクを減らすためには、適切な知識を早く教える必要があります。例えば、学校教育課と協働で行うことを検討できないでしょうか。</p> <p>* NO14「青春期を中心とした心の教育・性教育の推進」(学校教育課)と連携 性教育(エイズ予防教育)推進委員会を当初の目標を達成したので、H29年度は閉会するとありました。デートDV等の相手を尊重しない関係性の問題を、しっかりと取り上げたいことを願います。施策名にも合致する問題です。</p> <p>* NO26「男女平等の視点に立った情報教育の推進」(学校教育課)と連携 情報には、性暴力や男女の性別規範などについて誤ったものが多く、そこから子どもたちが「相手を尊重しない関係(DV等)を学んでいます。</p> <p>また、性的少数者についての知識も同様です。いじめや不登校、自殺念慮の危険もありますので、協働で推し進めてください。</p>	<p>県のDV対策推進計画においても、若年者に対するデートDV予防啓発を重点施策と捉え、「中学・高校・大学等でのデートDV啓発講座講師派遣事業」を実施している。 本市においては、この事業を、なるべく多くの中学校で活用していただきたいと考える。 学校においてすでに年間計画が決定しているなか、その内容を盛り込むことは厳しいのが現状ではあるが、学活の時間15分など工夫していただき啓発の時間を確保していただくよう、8月末の校長会に出向き依頼する予定。 来年度以降の授業に取り込むかどうかについては、カリキュラムが決定する今年度中に教育委員会と調整したい。 県は今年度は新たに、県内の中学3年生全員に、若年者向けリーフレットを配布したが、来年度配布する場合には、啓発講座を同時に行なえるように調整したい。</p> <p>情報教育研修会は、教職員に向けて情報教育や情報モラルに関わる研修会であり、女性に対する暴力の根絶に向けて行なわれるものではなく、この施策自体が男女共同参画推進の視点から有効でないとする。(学校教育課の見解)</p>	<p>* NO14について ・男女共同参画センターが8月末に校長会に出向いて依頼するというのは、大変素晴らしいので、是非頑張ってください。 ・若い子どもたちにDVというのをきちんと知ってもらうためには、リーフレットを配布し読んでもらうだけではなく、リーフレットの配布と併せて、啓発講座を実施していただきたい。その前提として、先生方がきちんとDVについて理解していただく必要があると思うので、まず教職員、次に子ども達を対象に啓発講座を実施するような道筋をつけていただければ良いと思う。</p> <p>・中学生は性的情報をたくさん得ているのが現状、そうした情報のなかには、女性の性をおとしめるようなものが少なくない。だから学校教育を通じて性的情報を提供しなければ、子ども達が危険な目に出会わないということではなく、むしろ対抗する意味できちんとした性的情報を提供する。世の中にいきわたっていて、子ども達が入手してしまう情報の中の、妥当でないものに対する反論としてのデートDV教育というのが有り得るのではないかと。</p> <p>・中学生の段階から、自分を大事にすること、相手を大事にすること、お互いの人格を大事にすることということを踏まえながら、基本的なことを押さえておくということも大事。</p>		<p>男女共同参画センター 吉田</p>

56	22			<p>*NO26について ・この施策は、「女性に対する暴力の根絶に向けて行われるものではないので、有効でない」と回答があるが、H29年度継続する必要性有に○がついているが、もしかしたら施策を削る方向なのか、確認していただきたい。 若い子ども達の間のデートDVの問題もこの施策と絡んでいるので、<u>暴力の根絶に向けた情報の教育は必要。有効でないのであれば、有効な施策は何を考えているのか知りたい。</u></p> <p>・子ども達がおかしな情報に接することによって加害者となり得るが、広い意味で言えば、その子も情報に毒された被害者とも言えるわけで、そいいういわばリテラシーを獲得するための教育というものの必要性がますます高くなっているのかなあとと思う。</p>		学校教育課 中島
66	27	<p>・女性がない審議会の割合は、H26.27.28をみると28年度は低下している。 登用する場合、出来れば二人をお願いしたい。今までの様子が分からず、一人だけの場合、発言がどうであったか教えていただきたい。 →審議会からの意見:「女性委員がない審議会等調査票」の提示 *資料有</p>	<p>各審議会所管課において、委員を選任する際に女性委員の登用を依頼しているが、審議会を成立させるにおいて、<u>男女問わず適任者であることが第一条件であること</u>、審議会の性質によっては専門知識を有する女性委員を選任することが困難なものもあり、何人以上は女性委員と条件を付すことは厳しい状況である。</p> <p>また、女性委員が1人のみの審議会における発言状況については、すべての審議会の状況を把握してはいないが、他の委員と同様に発言をしており、極端に発言が少ないということはない。</p>	/	/	行政管理課 本間
68	28-①	<p>・「女性職員の積極的な申出を促進する」とありますが、ここ数年の状況として、「女性が申し出ないから進まない」と聞きます。現状を変えるためには、「なぜ、女性が積極的に申し出ないのか？」という理由を調べ、原因分析をお願いします。そして、その原因について対策を講じてください。そうでなければ、現状は変わらないと思います。こうした取り組みについて検討いただきたいです。</p>	<p>女性活躍推進法に基づく特定事業主行動計画策定にあたり、女性職員の生の声をきく意見交換会を行いました。申し出を躊躇する理由として、<u>管理職としての責任と子育て等家庭との両立に伴う時間的問題、両立に伴う仕事の経験不足との認識などがあげられました。</u></p> <p>管理職への申し出を促進するために、<u>ロールモデルとなりうる女性の先輩職員との交流の場、女性職員同士の情報交換により、自信を持ち、励ましていく機会が必要であるという意見が多数あったことに基づき、女性管理職の先輩からこれまでのキャリアの歩みや管理職としての仕事、考えなどを聞き、女性職員同士が交流できる意見交換会を実施しています。</u></p>	<p>・情報交換会を実施し、申し出を躊躇する理由は、管理職の仕事と子育て等家庭との両立が問題だとある。対処されている方法として、女性職員の交流会を実施しているということ自体はとても良いと思うので、<u>先輩職員との交流会はぜひ進めていただきたい。</u> しかし、問題が両立に伴うものだと分かっているのであれば、女性職員が交流することによってクリア出来る問題ではないと思う。<u>男性を含めた働き方全体の問題だ</u>と思うので、<u>労働時間を含めた働き方全体の問題として捉えて、こへの対処をしていただきたい。</u> なおかつ、<u>女性たちが経験不足というのを感じているのであれば、これは人事の問題だと思う。そこに対処するというのは全体としてやる必要がある。</u></p>		職員課 岡田

88	35-①	<p>・H29年度の取り組みに「…母親委員が中心となり運営をしていく。また、母親委員が活躍できる場を積極的に設定するなどして、女性の意見が広く生かされるよう」とありますが、この施策は「PTA・子ども会育成会活動への男女共同参画」ですので、「母親が中心となる」という方向は憂慮されます。「子どものことは母親が」という性別役割の意識を助長しないでしょうか。</p> <p>しかし一方で、「団体の代表者に男性がなり、その下で女性たちが働く構造がある」という問題を意識してのことかもしれません。もしそうであるならば、それは性別の偏重という構造的な問題ですので、性別役割を推進することで対処するのではなく、別の方法で対処されることを望みます。 男女共同参画を進めるのであれば、PTAも子ども会育成会も、父親も同じく支える人になる方向をお考えください。</p>	<p>ご意見をいただいたとおり、PTA活動は子どもたちのために子どもにかかわる全てのPTAが協力しながら活動を推進しております。よってPTA活動の推進において「子どものことは母親が」という役割意識を助長するようなことは全くなく、みんなが協力し、PTA活動を推進しております。</p> <p>本施策は「4 女性が活躍する範囲の拡大（10）様々な分野での女性の参画の推進」であるので、それを意識して「母親委員が中心となり…」と書かせていただきました。ちなみに各学校のPTA代表として前橋市PTA連合会がありますが、その組織はPTA会長代表と母親委員代表、教職員代表の各7名で構成され、研修会等の企画運営をしております。</p> <p>「女性の参画推進」ということをふまえて、29年度の取組を書かせていただきましたが、初めに書かせていただいたとおりでありますので、可能であれば下記のように取組を変更させていただきたいと思っております。</p> <p>「男女共同参画についての基本的な考えを共有し、活動に取り組んでいく。」(施策No.35-②と同様)</p>	<p>・女性の割合等数字に拘泥しすぎていて、組織の運営は女性ばかりが多く、形骸化しているような気がする。女性が参加、参加というも分かるが、数の理論ではなく、良い意見を言えば女性でもきちんと意見を受け入れられるということも考えてほしい。今、女性が女性がつて言いますが、男性の活躍がとても少なく、今は父親のパワーが落ちているように思う。</p> <p>・男性であれ、女性であれ、引っ張りだすだけ、あてがわれた役割を無難にこなすのではなく、PTAというのが学校の下請け機関であったら、それ止まりになってしまうと思う。そうではなく、PとTと一緒に子どもの教育をバックアップしていくという実質が問われていると思う。そのうえで、男女の保護者が参画していくことによって、それぞれの保護者も自分の力を伸ばしていくことが出来るという、そういうあり方を目指すべきではないか。</p>		学校教育課 中島
92	36	<p>・自主防災活動への女性の参加 H26に比べれば、H28は26%と実績値が拡大した。目標値30%とあるが、これを40～50%にお願いしたい。女性の防災対策に役立つことは男性、高齢者、子どもにとっても有効と考える。</p>	<p>地域の自主防災会が実施する防災訓練に参加する女性の人数は、全国各地で発生している大規模災害への危機感の高まりにあわせ、確実に高まっている一方、訓練の中での女性の役割が連絡や炊き出しなどに偏りがちな点が課題と考えている。</p> <p>自主防災組織は自治会組織と連動しているところが多く、女性の参画率を高めることは容易でないが、女性の視点からの防災の備えの必要性を周知し、女性の参画を勧めていきたい。</p>			危機管理室 片貝
100	38	<p>・表彰企業のうち、男女共同参画に積極的に取り組んだことをもって表彰された企業を教えてください。</p>	<p>H26 株式会社 オリエンタルジャパン H27 医療法人 愛弘会 H28 コンピュートロン株式会社</p>	<p>・毎年1社ずつ表彰されている企業の名前が記載されているが、たまたま1社だけなのか、それとも枠組みとして設けているのが1社ということなのか。全部で16社くらい表彰しているようだが、そのうちの1社ということであれば少ない、もっと増えてもいいのではないか。</p>		産業政策課 町田
110	42	<p>・就職活動支援参加者のその後の就業状況を教えてください。</p>	<p>1. 女性の再就職支援 子育て女性と企業の交流会、子育て女性の就活塾、再就職応援セミナー参加者の就職者数については不明 ※子育て女性のための合同企業説明会及び就職面接会を含めた子育て女性の再就職支援事業全体の就職者数 H26 参加者195人 就職者29人 H27 参加者138人 就職者23人 H28 参加者159人 就職者41人</p> <p>2. その他(就活実践塾、パソコン講座、介護職員初任者研修講座等) H26 参加者179人(女性120人) 就職者12人 H27 参加者192人(女性128人) 就職者17人 H28 参加者170人(女性108人) 就職者11人 ※男女別の就職者区分分けはしていません</p>			産業政策課 町田

126	50	①「パパママ教室」の内容を詳しく教えてください。 →資料有	原則として妊娠24週～36週の初妊婦とその夫を対象に、日曜日に開催。講師は保健師で、内容は講話「親になるあなたのために」、実習「赤ちゃんのお風呂」です。ベビーバスと沐浴人形を使用し、パパママ二人で沐浴・オムツの当て方・抱っこ等を実習します。また妊婦体験コーナーを設けてありますので希望するパパには体験ができます。			子育て支援課 池谷
		②「パパママ教室」と「マタニティセミナー」は利用者の声(アンケート)を取っていますか？	両方ともアンケートを取っています。			
		③上記ふたつの取り組みは、利用者の声をいかして、内容改善の検討などはされていますか？	アンケートを実施し、その結果を係員で共有し改善できるところは検討しながら事業展開しています。 ・「妊婦体験しなかった」→講義開始前や休憩時間等に父親が自由に体験できるようにした。 ・「ビデオが古い」→赤ちゃんの泣きについてのDVDに変更。講義も追加。			
26	9			<p>・「国際社会での日本の数値が低い状況について情報提供を行った」とあるが、外国での男女共同参画の話聞くことも良いと思うが、もっと基本的な日本の文化や習慣・習俗を学ぶ必要があるのではないと思う。まず自国を知って、どうしてこういう状況なのかということ学ぶことが大切ではないかと思う。</p> <p>・日本の文化慣習のどこに問題があるのかを考える時に、その中で暮らしていると見えにくいものが、日本とは違う社会のあり方を知ることによって、「そうか日本ではここが欠けているのか」とか、<u>目頃慣れ親しんでいるのでおかしいと気づかないことが見えてくるということがあり得ると思うので、その意味では国際的な情報を手に入れるということは有意義ではないかと思う。もちろん、それで終わってしまうのではなく、それに基づいて我々の身近な慣習を見直していくところはどう整えていくのかということが重要だ</u>と思う。</p>	男女共同参画センター 吉田	
148	57			<p>・参加人数の記載がない。それから、男女比、男性と女性がどのくらいの割合で出席しているのかということも、男女共同参画の視点で捉えるならば、きちんと数字を出してほしい。</p> <p>・「女性の仕事と子育て」をテーマにして、講師に作家の方をお呼びしようですが、作家って特殊な職業だと思う。もっと身近な職業の女性にお話を聞かないと、本当のところ聞きたいということが聞けないのではないか。</p>	男女共同参画センター 吉田	
154	60			<p>・参加者数が分からない。何回も実施したというのは良いが、来ていただいた人数を正確に把握して、男女比を提示してほしい。</p>	生涯学習課 佐藤	

30	11			<p>・国際交流協会としての立場からの意見 「なんでこれが男女共同参画の施策なのだろうか」というのが正直なところ。国際理解講座等の実施回数7回以上が、どうして活動の指標になりうるのか、この回数が増えることで活発になるのか、男女共同参画ということを含く意識していない。国際理解講座の実施回数が指標となるのは、適切ではない、おそらくこの活動の中でも別な指標・目標が設定出来るのではないかと思う。</p> <p>・国際理解というのは、異文化理解であり、日本における男女の性差も文化だと思う。男女の今までやってきたこと、日本の中で知らないうちにずっと繰り返されてきて形作られてきたこと、その差に気づくことが異文化理解の一つの要素だと思う。そういう視点が入ると、施策としては絶対必要。今のままではそれがあまりにも希薄ではないかと思う。</p>		文化国際課 塩澤
34	13			<p>・国際交流協会としての立場からの意見 外国人相談窓口を週2回開催しているということが指標であることが疑問。これを開催しているということだけでは決して男女共同参画の活動にはならない。むしろ、もう少し内容を実施しているところと相談して作っていただければ良い。</p>		文化国際課 塩澤